

# (写)

平成28年10月11日

磐田市長 渡部 修 様

磐田市総合計画審議会

会長 三枝幸文

## 第2次磐田市総合計画（案）について（答申）

平成27年5月28日付け磐企秘第219号にて諮問のありました「第2次磐田市総合計画」について、当審議会において慎重に審議した結果、別冊のとおり、取りまとめましたので答申します。

なお、計画の策定・推進にあたっては、特に以下の意見を十分に尊重するとともに、新たな磐田市のまちの将来像「たくさんの元気と笑顔があふれるまち 磐田」の実現を目指し、最善の努力をされるよう要望します。

- 1 今後、本格的に進展する人口減少・少子高齢化社会においても、市民が愛着を持ち、「住んでよかった」「住み続けたい」と言われるまちとしていくためにも、本市が有する産業、自然、歴史、文化、スポーツなど、他市に誇れる地域資源や特性を最大限に活かし、より一層磨き上げながら、個性豊かなまちづくりを推進されたい。
- 2 新たな磐田市のまちの将来像「たくさんの元気と笑顔があふれるまち 磐田」については、人口減少社会を迎えるにあたり、今後予想される都市間競争に打ち勝つためにも、磐田の個性や特徴をより一層、前面に打ち出したものとなるよう検討されたい。
- 3 まちづくりにおける市民参画の重要性は、ますます高くなっており、行政だけでなく市民、市民団体、事業者など、多様な主体が連携・協力し、支え合うことが必要となっている。多様な主体が、まちづくりに参画しやすい環境づくりを進めるとともに、オール磐田で取組みを推進されたい。

- 4 産業は、税収面のみならず、まちの活性化や雇用の拡大による人口対策などの面からも極めて重要な取組みと考える。既存の事業者を守り、育てるとともに、新たな起業への支援や企業誘致など、産業の振興に取り組まれない。
- 5 今後、予定されているラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック開催などの機会を積極的に活用し、本市の魅力を効果的に発信するとともに、地域産業の振興や雇用の創出、交流人口の増加などにつなげられたい。
- 6 人口減少が進む中、若者が安心して子どもを産み育てやすい環境をつくりあげていくため、結婚、妊娠、出産の希望がかなう施策の推進に取り組むとともに、保育、幼児教育などの子育てに関する多様なニーズや子どもの貧困、虐待などの課題に対応し、明るい子どもの未来を創り出す総合的で効果的な施策を推進されたい。
- 7 学府一体校構想やコミュニティスクールの推進など、学校、家庭、地域が連携して、未来を築き、次世代のまちづくりの担い手となる子どもたちが、一人ひとりの命を大切に、いきいきと成長できる教育に一層取り組まれない。
- 8 多様な主体と連携し、高齢者福祉、障がい者福祉、医療、健康づくり、地域福祉など、保健・医療・福祉分野の施策を横断的に推進し、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活できるよう、地域における支えあい、助け合いの仕組みを構築されたい。
- 9 これから迎える人口減少社会において、地域の活力を維持していくためには、「人づくり」「地域づくり」がますます重要になっていることから、地域を元気にする活動や地域課題を解決する新たな仕組みづくり、地域コミュニティを活性化するための取組みをより一層進められたい。
- 10 総合計画は、将来における磐田市の姿と進むべき方向を示したまちづくりの根幹となる指針であり、市民の活動の指針でもあることから、本計画の内容については、多くの市民に知っていただき、理解いただけるよう、積極的な情報発信に努めながら、まちづくりへの市民の参加や参画を促進されたい。

- 11 それぞれの部局や施策は相互に連携しながら市民の幸せを支えているものであることから、計画の推進においては、関係する部局間の連携を密にし、従来の縦割りから横のつながりを明確にした事業展開を進めるとともに、適切な進行管理を図られたい。

磐田市総合計画審議会委員

青	島	美	子
飯	田	昌	弘
市	川	陽	祐
岡	本	一	夫
加	藤	千	晶
倉	嶋	恵	介
三	枝	幸	文
新	貝	令	之
鈴	木	一	雄
高	木	昭	三
高	橋	あ	や
高	柳	裕	久
戸	塚	邦	彦
鳥	居		勤
松	下	育	蔵
松	尾	陽	子
村	上	勇	夫
八	木	啓	仁